

(別添 1)

令和 6 年度 厚生労働科学研究費補助金

「専門薬剤師が医療の質に与える効果とその評価に関する研究」事例調査票

本調査は、2020 年 1 月から 2024 年 12 月の間に学術発表や論文掲載等（予定も含みます）された貢献事例をお持ちの場合に、専門薬剤師あるいは認定薬剤師の方ご自身がご回答ください。

Q1 ご自身についてお答えください。

- 施設名 []
- 施設所在地 [都・道・府・県]
- 薬剤師経験年数 [0-5 年、 5-10 年、 10-20 年、 20 年以上]
- ご所属施設についてご回答ください。
[病院・診療所、 保険薬局、 その他 ()]
- 病院・診療所にご所属の場合、病床数についてご回答ください。
[19 床以下 20-199 床 200-399 床 400 床以上 病院に勤務していないので、該当しない]
- 保険薬局にご所属の場合、貴薬局の表示及び認定薬局の取得状況についてお答えください（複数回答可）。
[1 専門医療機関連携薬局 2 健康サポート薬局 3 地域連携薬局 4 1 から 3 のいずれにも該当しない
5 薬局に勤務していないので、該当しない]

Q2 ご自身が取得している専門（認定）薬剤師を選択ください（複数お持ちの場合、全て選んでください）。

- 日本病院薬剤師会
がん薬物療法専門（認定）薬剤師 ・ 感染制御専門（認定）薬剤師 ・ 妊婦・授乳婦専門（薬物療法認定）薬剤師
師 ・ HIV 感染症専門（薬物療法認定）薬剤師 ・ 精神科専門（薬物療法認定）薬剤師
- 日本医療薬学会
がん専門薬剤師 ・ 薬物療法専門薬剤師 ・ 医療薬学専門薬剤師 ・ 地域薬学ケア専門薬剤師 ・
地域薬学ケア専門薬剤師（がん）
- 日本臨床腫瘍薬学会
外来がん治療専門（認定）薬剤師
- 日本緩和医療薬学会
緩和医療専門（薬物療法認定）薬剤師
- 日本小児臨床薬理学会・日本薬剤師研修センター
小児薬物療法認定薬剤師
- 日本腎臓病薬物療法学会
腎臓病薬物療法専門（認定）薬剤師
- 日本臨床救急医学会
救急専門（認定）薬剤師
- 日本医薬品情報学会
医薬品情報専門（認定）薬剤師
- その他（具体的に記載ください：)

Q3 特定領域の専門性を有する薬剤師として患者や地域に対する貢献事例として、下記の項目を記載ください（最低 1

つ以上、複数回答可)

※治療継続への貢献、患者満足度の増加、再入院率への影響、経済効果など。様々な観点からご記載ください。

貢献事例①

●関連する専門領域を1つ選択してください

[がん、感染 (HIV も含む)、精神、妊婦・授乳婦、小児、緩和、腎臓、救急、医薬品情報、薬物療法一般、地域医療 (在宅含む)、その他 (具体的に記載ください:)]

●貢献事例の公表媒体についてお答えください。

[学会発表 ・ 学術論文 (印刷中含む) ・ 特許 ・ その他 (具体的に記載ください:)]

●公表年および月を選択してください。(2020 年 1 月から 2024 年 12 月の間で選択)

●タイトル名 (学会発表や論文の場合は演題名や論文タイトル、特許などの場合はその出願名など) を記入ください。

●掲載雑誌名または学術大会名、特許番号等を記入ください。

●プロブレム

●関与したタイミングを1つ選択ください。

[外来診察前 ・ 外来診察後 ・ 入院中 ・ 在宅 ・ 処方箋調剤時 (在宅以外) ・ その他 ()]

●具体的な薬剤師の介入内容 (簡単に結構です)

●臨床アウトカム (簡単に結構です)

貢献事例②

貢献事例③

Q4 「専門薬剤師」のあり方として、問題点・要望などご意見があれば記載ください (自由記載)。

調査へのご協力誠にありがとうございました。

本アンケート結果は、個人がどのように回答されたかについては公表いたしません。研究報告書や薬事行政で使用される場合もあることをご理解いただきますと幸いです。

(別添 2)

貢献事例の記載例について

例 1： 学術論文の場合（論文タイトル、雑誌名、発行月の入力が必要です）

「オピオイド鎮痛薬を入院中に開始した外来頭頸部がん患者を対象とした病院薬剤師による電話サポート介入の効果」、
日本緩和医療薬学雑誌、2024 年 9 月発行予定

- プロブレム

「外来頭頸部がん患者に対する疼痛管理」

- 関与したタイミング

「在宅」

- 具体的な薬剤師の介入内容（簡単に結構です）

「外来頭頸部患者に対して、電話によりオピオイドの使用状況や NRS、副作用等有無を聴取し、適宜相談応需した。」

- 臨床アウトカム（簡単に結構です）

「外来頭頸部がん患者への薬剤師による電話介入が、オピオイドによる疼痛緩和や副作用回避に繋がった。」

例 2： 学会発表の場合（発表タイトル、学会名、発表月の入力が必要です）

「抗菌薬の供給不安定な状況下における抗緑膿菌薬の使用量変動とアウトカム評価」、第 98 回日本感染症学会学術講演会・第 72 回日本化学療法学会総会 合同学会、2024 年 6 月発表

- プロブレム

「カルバペネム系抗菌薬供給不安定時における抗菌薬使用量の変動等について」

- 関与したタイミング

「入院中」

- 具体的な薬剤師の介入内容（簡単に結構です）

「カルバペネム系抗菌薬供給不安定時に AST 会議の実施回数を増加させただけでなく、初期抗菌薬の選択や De-escalation の実施をはじめとした薬剤師による積極的な介入を継続して行なった。」

- 臨床アウトカム（簡単に結構です）

「抗緑膿菌薬全体の使用量増大を防いだ。」

* 事前に調査内容についてご確認・ご準備をいただきますと幸いです。